

中期経営計画における財務目標の修正について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(代表執行役社長 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち})は、2024年度からの3年間を計画期間とする中期経営計画を遂行しておりますが、直近の業績動向等を踏まえ、財務目標を修正しましたので、お知らせいたします。

1. 財務目標の修正

(1) 中期経営計画財務目標

	2026年度 ROE ^{*1}
前回発表目標	9%程度
今回修正目標	12%程度

(2) 修正の経緯

現中期経営計画においては、「成長」を取りにいく3年間と位置付け、成長戦略を進化させるとともに、社会課題解決への貢献・企業変革の加速を柱に据え、取り組みを一層強化してまいりました。

計画期間の初年度である2024年度において、2026年度目標として掲げていたROE9%に到達したことから、2025年度初に目標の見直しについて検討しておりましたが、外部環境の不確実性の高まりを踏まえ、環境を見極めたうえで、あらためて検討・公表することとしてまいりました。

足元においても、事業を取り巻く環境に不透明な要素が存在しますが、業績は当初想定を上回って伸長する見込みであり、ROE目標を上方修正することとしました。引き続き、中期経営計画の達成に向け、持続的な成長と収益性の向上を通じた企業価値の向上に取り組んでまいります。

*1. 前回発表目標はMUFG定義に基づくROEを示しておりましたが、今回修正目標は東証定義に基づくROEを示しております

[MUFG定義に基づくROE]

親会社株主に帰属する純利益

$$\{ (\text{期首株主資本合計} + \text{期首為替換算調整勘定}) + (\text{期末株主資本合計} + \text{期末為替換算調整勘定}) \} \div 2$$

以上

本資料には、当社または当社グループの業績、財政状態に関する予想、見通しなどの将来に関する記述が含まれています。かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記述されています。また、将来の予想、見通しなどを作成するためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし前提（仮定）は、その性質上、将来そのとおりに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離したりする可能性があります。そのような事態の原因となりうる不確実性やリスク要因は多数あります。その内、現時点において想定し得る主な事項については、最新の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、**Annual Report**をはじめとした当社の公表済の各種資料をご参照下さい。